

2021年も あっという間に ひと月が過ぎ、今日は“立春”、暦の上では春を迎えました。少し前までは 頬を刺すように冷たかった北風が、身体を包み込むような柔らかな陽射の中で やさしい温もりを感じます。木々の蕾も膨らみ始め、自然界の季節は移り始めているのですね。コロナ禍の中、4月から歩んできた2020年度も、残すところ とうとう2か月となりました。昨日、年長組の子ども達が卒園までの日数を数えたところ、たった57日しかなかったことに 一気に旅立ちへの実感が迫った様子で それぞれ驚きと何よりの寂しさを感じていたそうです。休日を除けば、正味1か月余りの保育園生活です。15名ひとりひとりの笑顔を見つめながら 最初の出会いの頃の 小っちゃかった姿を想い浮かべ、心も身体も すっかりたくましくなった 目覚ましく頼もしい成長ぶりに、まさに“感無量”の涙が いつの間にか あふれてきました。わずか6年間で、こんなに大きくなって…こんなにしっかりしちゃって…こどもって すごいと心から感動しつつ、こうして皆の成長を喜び 共に歩める この保育の仕事に改めて感謝です。保護者の方々からの子育ての迷いや悩み、お子さんについての様々な相談を受けた際に 時折 「どうして～なんだろう」「なんで～ができないんだろう」など、お子さんの姿を心配して 困ったり焦ったりしながら話されている時に 日頃 感じている私の想いをお伝えすることがよくあります。それは「〇〇ちゃんが この世に生まれてから、〇年でしょう。ということは、〇〇日間ですヨ。時間なら たった 〇〇〇時間です。まだ それしか生きていないんですよね。そう考えてみると、こどもってみんな、ほんとうにすごい！とって 頑張っているんだなと思いませんか？」ということです。これは 私の母が、私と弟が幼い頃 子育てをしている時に 毎日毎日 不安や心配で焦ってイライラしていた ある晩、「あなた達2人の あどけない寝顔を眺めていたら ふと気がつかされたのよ」と しみじみと話してくれたことが きっかけでした。保育者になったばかりの新米先生だった その頃の私は 突っ走りすぎていたのだと思います。クラス子ども達に対して 目の前の“現在(いま)の姿”よりも 将来の事ばかりに目が行き 在るがままの姿を受け入れられず、子ども達に求める事ばかりをしていました。家に帰っても 母に仕事の話をしながらい溜息交じりに呟く日々、そんな様子を見かねて話してくれた事でした。3か月で たった90日、1歳なら 365日、5歳でも 1825日しか 生きていないのです。そのことを知った瞬間、大きな感動と共に 子ども達ひとりひとりが とても愛しく感じられて それまで縛られていた重たい感覚から すっかり解放されたような気がしたのを覚えています。2000日にも満たない“人生”の中で、たくさんの刺激を受け、体感し 吸収し 学習しては ぐんぐん成長しながら 毎日毎日、一瞬一瞬を 全身全霊で生きている子ども達なのだと思うと 幼な子の生きる力の素晴らしさに感動し 心の底から讃えながら皆を抱きしめたくまりました。同時に 先のことを思い煩い 結果を焦ったり 色々なことを子どもに求めたりする必要はない、人はもともと 人として生かされる命の息吹を神様から与えられているのだと思わされました。私たち大人が、それぞれが持って生まれた命のパワーを信じ、ひとりひとりに与えられている かけがえのない賜物を愛し、現在を見つめ育てていくことの大切さを再び気づかされています。そんなことを想いながら 先日、りす組を覗くと 楓ちゃんが小さな手でぎゅっと抱えた絵本を 果澄ちゃんに読んであげていました。ニコニコ優しく笑いながら“楓ちゃん語”でハキハキと ゆっくり読み聞かせていたその様子は、先生達そっくりでした。果澄ちゃんも、うんうん！と ご機嫌な笑顔で大きく頷きながら楽しそうに見ている、何とも言えないまほえましい姿でした。小っちゃかった りす組さん達も、気がつけば 可愛い お姉さんお兄さんに成長していました。こどもって やっぱすごい！ と また力を与えられ 幸せな想いに満ち、感謝した一瞬でした。世界中の すべての子ども達の上に 神様の平安と祝福が 豊かにありますように…。(石田 記)

『たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。』

成長させてくださる神なのです。(コリントI 3:7)』